

# 「2014年度合格祝賀会」

## 平成26年度 合格祝



合格者を代表してあいさつする北山沙樹さん

# 司法試験、公認会計士試験、 国家公務員採用総合職試験

今年度は、司法試験7人、公認会計士試験12人、国家公務員採用総合職試験4人の、合わせて23人が合格した(14年12月8日現在)。祝賀会に採用された6人を除く17人が出席。矢野建一学長をはじめ、ゼミの指導教員、校友会、校友会関係者らの祝賀会が祝福を受けた。

司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験4人の、合わせて23人が合格した(14年12月8日現在)。祝賀会に採用された6人を除く17人が出席。矢野建一学長をはじめ、ゼミの指導教員、校友会、校友会関係者らの祝賀会が祝福を受けた。



▲ 公認会計士試験現役合格者の前列右から森田さん、和田さん、久保さん、大坪さん

## 14年度公認会計士試験、国家 公務員採用総合職試験合格者

司法試験合格者は本紙529号に掲載。国家公務員採用総合職試験【院卒者試験】にも1人が合格。※カッコ内は在学・卒業年学部、所属ゼミ、出身校

### ◆公認会計士試験

- 大坪盛也さん(商3、埼玉県大宮開成高)
- 久保圭吾さん(経管4、神奈川県横浜栄高)
- 和田賢門さん(経管4、神奈川県在田高)
- 森田祐介さん(商4、千葉県船橋東高)
- 佐々木大さん(平26商、佐々木重人ゼミ、神奈川県生田高)
- 佐藤和典さん(平26商、菱山淳ゼミ、長野県飯田北高)

### ◆国家公務員採用総合職試験【大卒程度試験】

- 菅谷直紀さん(経済4、千葉県銚子市立銚子高)
- 北山沙樹さん(法4、内藤光博ゼミ、東京都新宿高)
- 岐部 稜さん(法4、小林弘和ゼミ、神奈川県港北高)

今年度は、司法試験7人、公認会計士試験12人、国家公務員採用総合職試験4人の、合わせて23人が合格した(14年12月8日現在)。祝賀会に採用された6人を除く17人が出席。矢野建一学長をはじめ、ゼミの指導教員、校友会、校友会関係者らの祝賀会が祝福を受けた。

合格者には専修大学、職試験に合格した北山沙樹さんが「本学で楽しく、深く法律を学ぶことができました。卒業後も専修大学の名に恥じぬよう頑張ります」と結んだ。公務員採用総合職試験に合格した。

公認会計士試験に合格した学生4人と、国家公務員採用総合職試験合格者を代表して、北山沙樹さんに合格までの道のりや今後の抱負を聞いた。

### 合格者の声

#### 大坪盛也さん

3年次での公認会計士試験突破を決意し、奨励生に選ばれてからは学習プロセスを組み立ててペースをつかむ学習法に集中しました。

#### 久保圭吾さん

在学中に「何か強みとなる資格を取ろう」と考え、公認会計士試験合格を目標に掲げました。

#### 和田賢門さん

高校までサッカーに熱中した分、大学では勉強して難関試験に挑戦する。

#### 森田祐介さん

会計士を目指したきっかけは高校時代に読んだ『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』。感覚でなく、数値で物事を理解する考え方にひかれました。

#### 北山沙樹さん

教育問題に興味があり将来を担う子どもたちを支える仕事を、と公務員を目指しました。

## 暗記は満員電車で

水道橋の大原簿記学校の三角地点を歩き来するつらい通学時間を活用し、暗記ものは満員電車で揺られながら覚え

## オン、オフのメリハリ

集中して机に向かう時間と、休み時間のメリハリを意識。書いて勉強して

## 計画的に勉強と運動

勉強時間は食事や昼寝、雑談を含めて毎日14時間あまり。いつ何

## 無心に考え続ける

この1年、頭を白紙にして勉強をやり直しま

## 子どもたちを支える

まだ諦めずに取り組んだ成果だと思

「諦めず、素直に、頑張り続ける」。それが大事だと実感しています。(4面に関連記事)

勉強も心掛けた。会計分野でもグローバル化が進んでいます。卒業までの時間を有効に使う

息抜きは土曜の夜のフットサル。体を動かすとまた頑張ろうと意欲が湧

か、1からノートをとるながら探りました。合格を反映させる仕事こそ自分に向いている

官庁を回る中で、現場の声を耳を傾け、その声を反映させる仕事こそ自分に向いている

## 計修会も祝賀会

計修会(専修大学公認会計士試験研究室)主催の公認会計士試験合格祝賀会が12月13日、神田キャンパス近くの会場で約50人が参加して開かれた。写真。

先生方から「来年は現役さんとともに「公認会計士試験合格は、努力すれば必ずかなうと信じてほしい」と語った。

帯には「夫を追い出す女房もいた」。三行半で書かれた江戸時代の離婚状「三くだり半」は女性の地位の低さの象徴などではなく、実際は女性が続ける良書として復刊された。作家・井上ひさしが『東慶寺花だより』を執筆するきっかけとなった書でもある。(吉川弘文館・本体2400円+税)

事情を研究してきた。本書では、夫からの一方的な離婚宣告書ではなく、協議離婚に近い「熟談離婚」だった」と史料をもとに三くだり半を解説。妻からの離婚請求手段の一つだった縁切寺への駆け込みについても詳述する。

著者(あらかき・としお)は文学部教授。主な担当は「日本古代の王権から9世紀にかけて、変貌をと国家」。

敗者から日本史を読み解く「敗者の日本史(全20巻)の第4巻。藤原氏との政治抗争に負け続けた歴史の表舞台から消えた有力氏族・大伴氏の歴史と変遷を検証する。古代日本の「氏族」は二次的・政治的に編成された集団を指し、人類学でいう氏族とは異なる。大伴氏の場合、5世紀から9世紀にかけて、変貌をと国家」。

古代理論の勝者と敗者 荒木敏夫著

